

水稻の生育状況（8月25日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2022年8月29日

1 生育状況

本年の出穂期は、平年値(2012～2021年までの過去10年平均)と比べて、ほぼ平年並みでした。（表1参照）

2 栽培上の留意点

気象庁が8月25日に発表した1か月予報(8/27-9/26)では、気温は「平年並か高い」、降水量は「平年並か多い」、日照時間は「平年並か少ない」となっています。

今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

(1) 水管理

出穂後高温が続く場合、乳白粒などの未熟粒の発生が多くなるので、かけ流しかん水（特に夜間のかけ流し）を行い、水温をできるだけ下げて水稻への負担を軽減しましょう。

出穂期10日後以降は、根腐れを防止し登熟向上を図るため、間断かん水（3cm程度の湛水状態にして、水が無くなったなら再び湛水にすることを繰り返す）を行いましょう。間断かん水は、地面を固くして倒伏防止の効果も期待できます。

落水時期は、出穂期から30日以後とします。早期落水は玄米の充実を妨げ、未熟粒や胴割粒等の障害粒の発生を助長するので可能な限り遅くしてください。

(2) 収穫

成熟期は、出穂期以降の日平均気温の積算温度から、ほぼ平年並みになると見込まれます。ただし、収穫時期は、今後の気温の推移、黄化粳割合、粳水分、倒伏程度等から総合的に判断してください。収穫適期の黄化粳割合の目安は約85%です。図1を参考に判断しましょう。

刈り遅れは、穂発芽や胴割粒等の発生を助長し、著しい品質低下につながるので、必ず適期に収穫します。「はるみ」や「てんこもり」は、「キヌヒカリ」よりも穂発芽しにくいですが、刈り遅れないようにしてください。

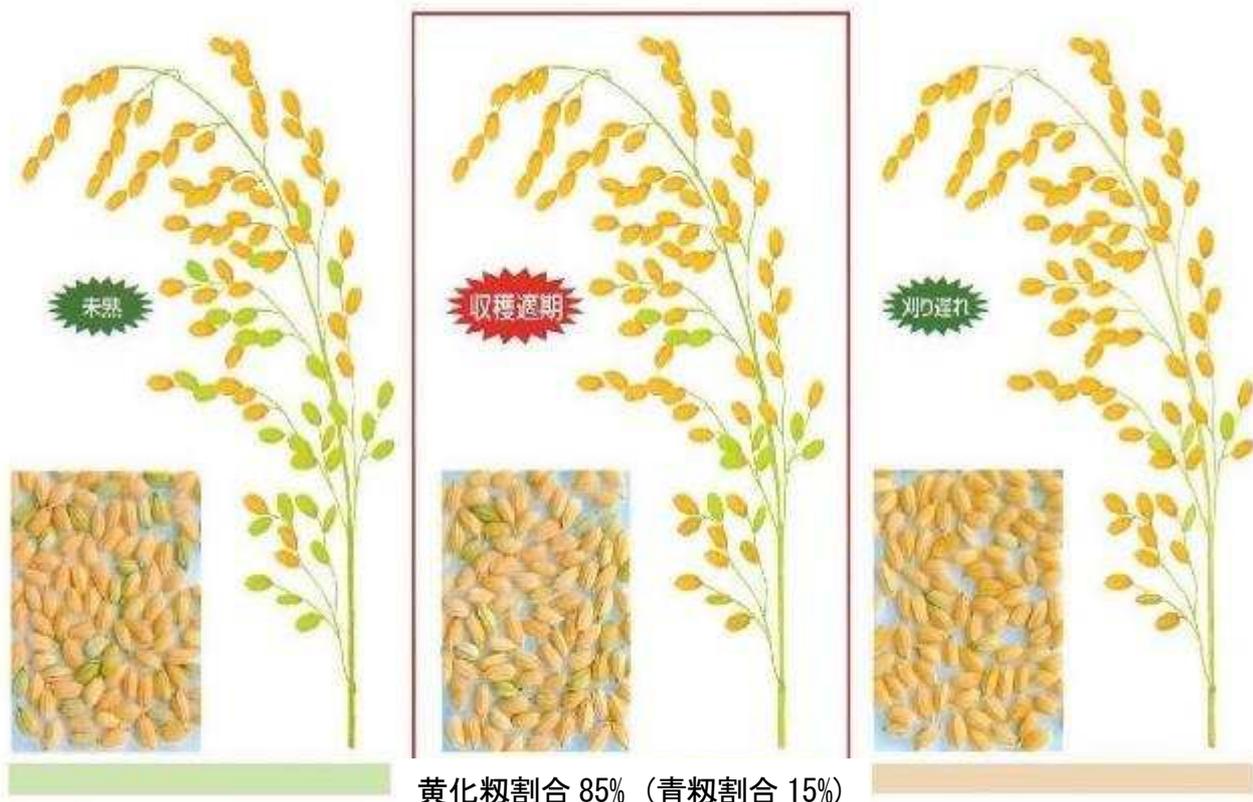


図1 1穂粳の黄化粳割合

(3) 病害虫防除

ア 籾の褐変【写真1】

出穂期前後の強い降雨、強風及び高温の条件下では、籾枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が発生しやすくなり、本年も8月13日の台風8号の影響等により籾の褐変が目立っています。玄米の品質を下げないために、丁寧に調製して未熟粒・被害粒を取り除きましょう。

イ トビイロウンカ【写真2】

8月中旬以降に海老名市、平塚市、伊勢原市の予察灯でトビイロウンカの誘殺が確認され、一部予察灯周辺の水田で成虫の寄生が確認されました。トビイロウンカは増殖が早く、今後、水田で急激に増える可能性がありますので、トビイロウンカの発生状況に注意してください。水稻の株元に短翅型成虫が株あたり2～3頭以上寄生していると、坪枯れの被害が予想されます。水稻の生育状況に注意し、寄生を確認したときは収穫前日数に注意し、適切な防除を行うようにしてください。

ウ 紋枯病【写真3】

紋枯病は、高温・多湿条件で多発します。多発水田では倒伏に注意しましょう。また、翌年は紋枯病に適用のある箱施薬剤を使うようにしましょう。

エ スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）【写真4、5、6】

スクミリンゴガイの発生地域が拡大しています。スクミリンゴガイのほ場内への侵入を防ぐため、水口と水尻には6～9mm目合いの網を設置しましょう。また、スクミリンゴガイの密度を減らすために、水田や水路に貝を発見したら捕殺し、ピンク色の卵（卵塊）は潰しましょう。

オ その他

その他の病害虫対策については、病害虫防除部が発信している「令和4年度病害虫発生予察情報」を参照してください。

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/ent/f450002/2022_3_31.html



籾の褐変【写真1】



トビイロウンカによる
坪枯れ症状【写真2】



紋枯病【写真3】



スクミリンゴガイ【写真4】



網の設置の様子【写真5】



スクミリンゴガイ
の卵塊【写真6】

(4) 収穫作業における異品種・異物混入防止対策

- ・ 収穫前に、水田内のゴミや空き缶等を除去します。
- ・ 雑草種子混入を防ぐためクサネム、ヒメミソハギ等の雑草を除去します【写真7, 8】。
- ・ 収穫前に、ほ場の事前確認を行い品種と収穫の順番を確認します。
- ・ 倒伏や刈り遅れた場合、収穫時に株が抜けて小石等の異物が混入しやすくなるので、高い位置で刈り取ります。
- ・ コンバインや穀類搬送機等は、エアーコンプレッサー等を使って丁寧に清掃します。



クサネム【写真7】



ヒメミソハギ【写真8】

(5) 農作業安全

ア 収穫乾燥の機械作業

- ・ コンバイン、乾燥機等の機械は、事前に必ず点検及び整備を行い、計画的な作業に努めます。合わせて、コンバインの刈刃は切れるように整備しましょう。
- ・ コンバイントレーラー搬送は、低速走行のために夕暮れ時等に自動車との接触の危険性が高まります。法令に定められた灯火類の設置を確認し、事故防止を図ってください。
- ・ 収穫作業を始める前に、コンバインの転倒・転落を防ぐため、事前に路肩や畦畔の状態を確認してください。
- ・ コンバインの積み下ろし時や勾配が大きい水田へ出入りする場合は、充分強度の高いブリッジ等を用いて低速で行いましょう。
- ・ コンバイン作業中に、ワラの詰まりやその他異常が発生した場合は、必ずエンジンを止めて対処してください。

イ 熱中症

引き続き、農作業中の熱中症注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。のどが渇いていなくてもこまめに水分補給するとともに、帽子の着用や、汗を発散しやすい服装に心がけましょう。

高温多湿の環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高まりやすいです。屋外で人と十分な距離を確保できる場合は、マスクを外しましょう。

(6) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避、軽減のため、次の対策が有効です。

台風などの大雨の際に、水田等を見回ることは大変危険です。 気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、安全な状況になるまでは行わないようにしてください。

ア 事前防止対策

- ・ 用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・ 台風前に水田の水を深く張り、倒伏や急性萎ちょうを防ぎます。

イ 事後対策

- ・ 損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・ 風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・ 台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の情報に注意します。

【参考】

表1 農業技術センター（平塚市）における過去10年平均の出穂期及び成熟期

作期	品種名	平均出穂期 (本年出穂期)	登熟日数	登熟積算温度	成熟期
6 月 7 日 植	はるみ	8月10日 (8月12日)	39日	1010度	9月18日
	キヌヒカリ	8月9日 (8月11日)	39日	1020度	9月17日
	てんこもり*	8月16日 (8月16日)	39日	1010度	9月24日
6 月 17 日 植	はるみ**	8月16日 (8月16日)	40日	1020度	9月25日
	キヌヒカリ	8月15日 (8月15日)	41日	1030度	9月25日
	てんこもり*	8月20日 (8月20日)	44日	1080度	10月3日

*2018～2021年までの過去4年平均データ

**2012、2015～2021年までの過去8年平均データ

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課
平塚市上吉沢1617

TEL : 0463-58-0333 内線 381～384

FAX : 0463-58-4254